

みづなみ VISION

第7次瑞浪市総合計画“基本構想”ビジョンブック
R6(2024) ▶▶▶ R15(2033)



みづなみ
VISION

第7次瑞浪市総合計画“基本構想”ビジョンブック
R6(2024) ▶▶▶ R15(2033)

※写真等については今後、変更となる場合があります。
全体のデザインイメージを伝える案であることにご留意ください。

CONTENTS

04_ 目指すビジョン

将来都市像／人口フレーム

06_ 土地利用の方向性

08_1. 人・未来を育むまちづくり

10_2. 魅力あふれるまちづくり

12_3. 生涯活躍のまちづくり

14_4. 活みなぎるまちづくり

16_5. 持続可能なまちづくり

18_ 総合計画とは

20_ 瑞浪市はこんなまち

22_ まちのこれから



幸せ実感都市 みずなみ いっしょに創ろう 夢ある未来

瑞浪市長
水野 光二

本市は、昭和29年(1954年)、7ヵ町村の合併により誕生して以来、先人たちのたゆみない努力により、福祉の充実、都市基盤の整備、産業の振興、教育文化の充実等を図り、豊かな暮らしを営むことができる、魅力あるまちに成長してきました。

私たちを取り巻く社会情勢は、少子高齢化の一層の進行や人口減少、情報化社会の急速な進展等、大きく変化しています。これらを受け地方では、人口減少問題の解消及び地域活性化に向けた地方創生の動きが進んでおり、地域の魅力を創出し発信すべく、各自治体が特

色ある施策を展開しています。

「第7次瑞浪市総合計画」は、令和6年度から令和15年度までの10年間の基本的なまちづくりの方向性を示す計画です。地域懇談会、市長と語る会、学生ワークショップ、自治会・まちづくり推進組織ワークショップ、市民・学生・企業アンケート、意見収集ボードによる意見聴取等、多くの市民の皆様にご参加いただき、共に考えながら策定したものです。

「幸せ実感都市 みずなみ～いっしょに創ろう 夢ある未来～」

この将来都市像は、市民の皆様の熱い想いが集約された素晴らしい目標です。

市民の皆様との対話を大切にしながら、将来都市像の実現に向け、効果的な施策の推進に努めて参りますので、なお一層のご支援、ご協力をお願いします。

最後になりましたが、本計画の策定にあたり、熱心にご審議をいただきました総合計画審議会委員の皆様をはじめ、多くの貴重なご意見やご提言をいただきました市民の皆様にご心からお礼を申し上げます。

目指すビジョン R6-15

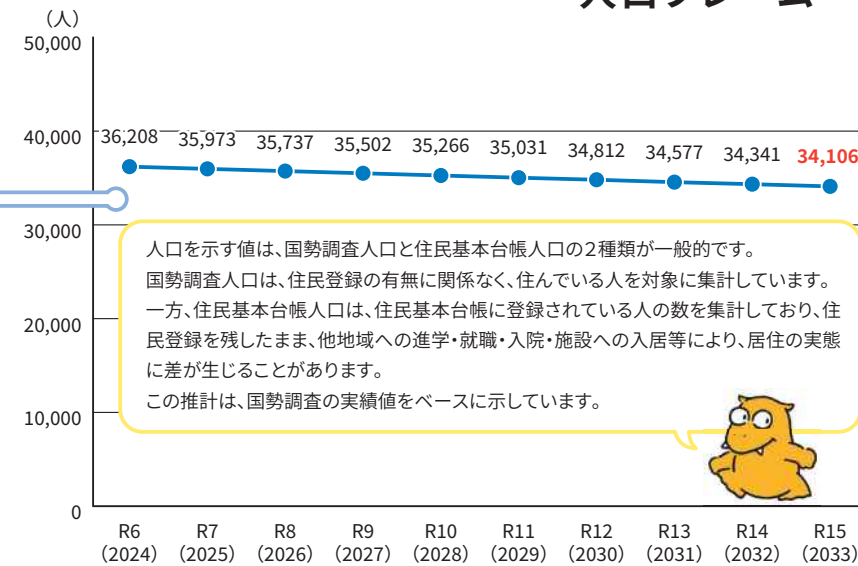
10年後の瑞浪市をイメージしてみてください。
皆さんの暮らしが、
より豊かに、より幸せを感じられるように。
「将来都市像」を次のとおり掲げ、
その実現のために
人的な方向性を示す「人口フレーム」、
面的な方向性を示す「土地利用の方向性」を
次のとおり定めます。

将来都市像

本市の人口は、平成12(2000)年の42,298人をピークとして減少に転じ、国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の推計によると、令和42(2060)年に20,599人になるという結果が出ています。人口が減少していく中でも、市の活力を維持・向上させるべく、各種施策に取り組み、計画期間である令和15(2033)年度末における人口は、

34,000人程度 を目指します。

人口フレーム



令和2年国勢調査の実績値及び社人研による推計をベースにしたコーホート要因法※1による推計

※1：各コーホート(同じ年(または同じ期間)に生まれた人々の集団)について「自然増減」(出生と死亡)及び「純移動」(転出入)という二つの「人口変動要因」それぞれについて将来値を仮定し、それに基づいて将来人口を推計する方法。

幸せ実感都市みずなみ

～いっしょに創ろう 夢ある未来～

10年後の瑞浪市は、みんなの笑顔があふれています。
育んできたまちづくりは、様々な方面で若い世代の活力を取り入れ、さらに広がります。
全ての人々が、幸せを実感できる
持続可能なまちを目指します。



土地利用の方向性

各地域の魅力ある恵まれた資源を活用し、いつまでも安心して快適に暮らせるまちづくりを進めることにより、調和のとれた発展を目指します。

住居ゾーン

良好な住環境が形成されている地区では、安全・安心・快適で暮らしに適した環境の維持・創出に努めます。

商業ゾーン

JR瑞浪駅周辺や国道19号沿線では、市民が買い物を楽しめる環境や、買い物をしやすい環境、営業に適した環境の創出に努めます。



ちawan屋みずなみ

自然環境保全ゾーン

飛騨木曾川国定公園や屏風山(黒の田湿地)等では、水源や森林の保水機能を生かした防災機能、自然を活用した交流の場等、多面的な機能を持つ自然環境の保全に努めます。



黒の田湿地

農業ゾーン

農業が営まれている地域では、里山等の身近な自然と農業の持つ多面的機能をまちづくりに生かしながら、農業と暮らしに適した環境の実現に努めます。

中山道大湫宿

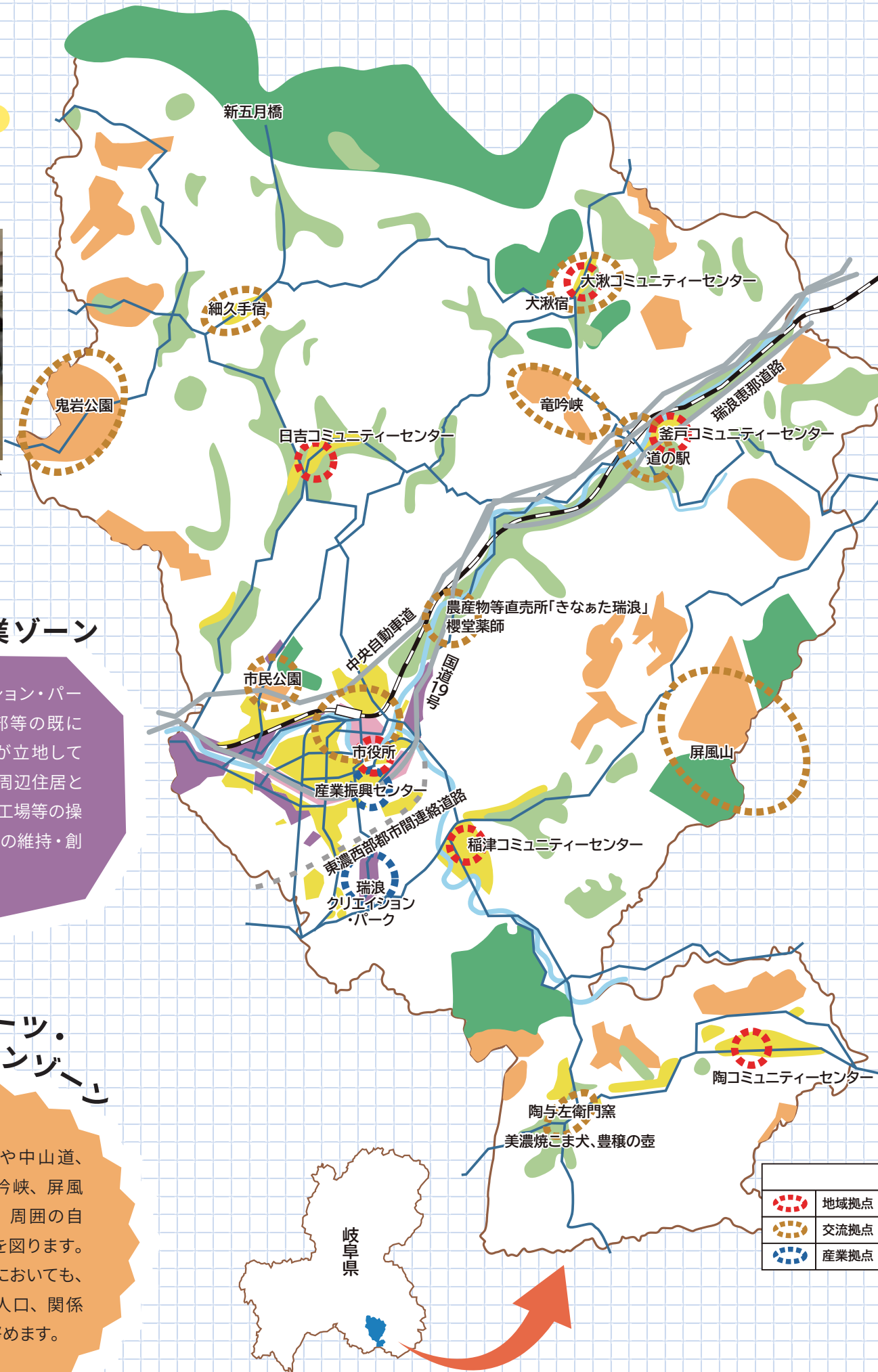


工業・産業ゾーン

瑞浪クリエイション・パークや市街地西部等の既に大規模な工場が立地している地区では、周辺住居と調和を図りつつ工場等の操業に適した環境の維持・創出に努めます。

観光・スポーツ・レクリエーションゾーン

瑞浪市民公園や中山道、鬼岩公園、竜吟峡、屏風山周辺等では、周囲の自然環境の活用を図ります。また、ゴルフ場においても、市内外の交流人口、関係人口の拡大に努めます。



地域拠点

市役所、各コミュニティセンターを地域拠点として位置づけ、地域の生活や様々なコミュニティ活動がしやすい場所として活性化を図ります。

交流拠点

市内に広がる様々な資源を交流拠点として位置づけ、それぞれの特性を活かした交流の場としての活用を図ります。

JR 瑞浪駅周辺、JR 釜戸駅周辺、瑞浪市民公園、大湫宿、細久手宿、鬼岩公園、竜吟峡、屏風山、農産物等直売所「きなあつ瑞浪」、美濃焼こま犬、豊稔の壺、陶与左衛門窯周辺、瑞浪市道の駅

産業拠点

新産業の活性化、地場産業の振興を図る地区および施設を産業拠点として位置づけ、産業の活性化を図ります。

瑞浪クリエイション・パーク、産業振興センター

凡例	
	地域拠点
	交流拠点
	産業拠点
	住居ゾーン
	商業ゾーン
	工業・産業ゾーン
	農業ゾーン
	自然環境保全ゾーン
	観光・スポーツ・レクリエーションゾーン

岐阜県



1

人・未来を育む まちづくり

子どもは地域の宝であるということを念頭に、地域で支え合いながら安心して子どもを産み育てられるよう、子育て支援を充実させるとともに、生き抜く力を育む学校教育の充実を図ります。また、誰もが気軽に学び、その成果を地域に生かすことができる機会、スポーツや芸術を楽しむ機会、地域の歴史や伝統文化を理解するとともに親しむ機会を創出するなど、“人・未来を育むまちづくり”を推進します。

基本方針に関連するSDGs



1 子育て支援

安心して子どもを産み育てることのできる環境のさらなる充実を図ります。



2 就学前教育・学校教育

就学前教育の質の向上、そして児童・生徒の学力や生きる力の向上に取り組むとともに、園・学校・家庭・地域が連携した教育を展開するなど、教育環境の充実を図ります。

3 生涯学習

市民の多様な学習ニーズに対応した環境整備に努めるとともに、生涯学習活動のさらなる充実を図ります。



4 生涯スポーツ

生涯を通じて気軽にスポーツに親しみ、継続することができるよう、スポーツ活動の普及・充実に向けた取組を進めます。

5 文化・芸術・文化財

文化・芸術の振興に向けた人材育成と各種団体の活性化を図るとともに、本市文化財の適切な調査・保存・保護に努め、後世に伝えていきます。



6 人権尊重社会

各種団体との連携強化を図るとともに、人権を尊重し合えるまちづくりを進めます。



2

魅力あふれるまちづくり

本市の豊かな自然や歴史、文化等を市内外に広く発信し、本市の認知度ならびにイメージの向上とともに、本市への愛着の醸成を図ります。

市民と行政の適切な役割分担のもとでパートナーシップを構築し、協働のまちづくりによる課題解決に取り組み、まちづくりへの積極的な参画を促すなど、“魅力あふれるまちづくり”を推進します。

基本方針に関連するSDGs



1 シティプロモーション

本市の魅力在市内外に積極的に発信し、認知度やイメージの向上とともにシビックプライド※2を醸成し、地域活性化と定住人口の増加、観光誘客の促進等につなげます。

※2：市民の誇りといった概念。この地域に誇りと愛着を持ち、まちをよくするために主体的に活動しようとする意識。

2 協働のまちづくり

地域活動を担う人材・団体の育成や市民参加の取組等、市民と行政が共に考え、共に行動する協働のまちづくりを推進します。



3 住環境

地域の特性を踏まえた適正な土地利用の誘導や空き家等の利活用に努め、快適で暮らしやすい生活環境づくりを進めます。また、瑞浪駅周辺における再開発を核とし、そのにぎわいを市全域に波及させるまちづくりを進めます。



4 まちなみ

地域に根差した歴史・文化が感じられ、そして市民が自分たちのまちに誇りを持ち、暮らし続けたいと思うことができるまちなみの整備を推進します。

5 情報共有

市民が、多様な情報の中から必要な情報を入手できる環境づくりとともに、ICTを活用した行政サービスの充実や情報化を支える環境整備に取り組みます。





3

生涯活躍のまちづくり

一人ひとりの健やかな心と身体を育みつつ、高齢者福祉と障がい者福祉の充実を図ります。また、地域住民や地域の多様な主体がつながり合い、支え合いながら生きがいを持って安心して暮らしていける地域共生社会の実現を目指す、“生涯活躍のまちづくり”を推進します。

基本方針に関連するSDGs



1 地域福祉・社会保障

地域共生社会の実現を目指して、重層的な支援体制の構築に向けた分野横断的な取組を推進しながら、地域福祉の向上に取り組みます。また、社会保障制度の周知ならびに適切な運用に努めます。

2 健康・医療

すべての市民が生涯健康に暮らせるよう取組の充実を図ります。また、誰もが必要な医療が受け続けられるよう広域的な取組を始め、市内外の機関や関係者との連携により、医療環境の充実を図ります。



3 障がい者福祉

障がいのある人が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、適切な支援体制を構築するとともに、障がいのある人への理解を促す情報発信に努めます。

4 高齢者福祉

介護予防の普及啓発とともに、地域で見守り支え合う意識を育みながら、高齢者が安心して暮らし続けることのできるまちづくりを進めます。





4

活気みなぎる まちづくり

魅力ある地域産業づくりに取り組むとともに、農林業・畜産業・商業・工業等の産業と、豊かな自然や歴史、文化といった資源を活かした観光を連携させ、また、新規や規模拡大に取り組む事業者を積極的に支援するなど、地域産業や地域資源を最大限に活用した“活気みなぎるまちづくり”を推進します。

基本方針に関連する
SDGs



1 農林業

効率的かつ強い農業を目指し、担い手の確保・育成や農地の集積を進めます。また、農産物等直売所「きなあた瑞浪」の積極的な活用とともに、健全な森林環境の保全に取り組むなど、持続的な農林業の振興を図ります。



2 畜産業

畜産農家の経営安定に向けた支援等、畜産業の振興に取り組みます。



3 商業

魅力ある商店づくりやにぎわいの創出に向けた取組を進め、地域経済の活性化を図ります。また、各種団体との連携による人材育成や創業支援等、商業の振興に取り組みます。

4 工業

本市の地場産業である陶磁器産業の活性化とともに、新産業の創出や事業者の支援等、工業の振興に取り組みます。



5 観光

本市の豊かな自然や歴史、文化等を最大限に活用するとともに市内産業と連携した観光の充実を図り、交流人口・関係人口の拡大を目指します。



6 市民生活

複雑多様化する市民の相談に適切に対応できるよう、相談窓口の継続的な周知及び体制づくりを進めるなど、その強化に努めます。



5

持続可能なまちづくり

環境問題や省エネルギー・新エネルギーへの取組を強化しつつ、しなやかで強靱な都市基盤と利便性の高い公共交通の構築を進めます。また、本市での安全・安心な暮らしが続けられるよう、自助・共助・公助の連携による防災・防犯体制の強化を図るとともに、質の高い行財政運営を進めるため行政改革に取り組むなど、“持続可能なまちづくり”を推進します。

基本方針に関連するSDGs



1 循環型社会

地球環境負荷の低減に向けた持続可能なまちづくりを推進するとともに、市民や企業、各種団体、地域が身近なことから環境問題に取り組める環境づくりを推進します。

2 環境保全・エネルギー

ゼロカーボンの実現に向けて、省エネルギー・新エネルギーの活用を推進するとともに環境学習の充実や生活環境の保全に取り組みます。

3 道路・河川

効率的な都市インフラの整備や維持保全に努めます。また、安全な河川と豊かな水辺環境の保全に努めます。



4 上下水道

上下水道の計画的な維持・管理に努め、安定した水の供給と適切な汚水処理を行います。



5 公共交通

先進技術の活用を視野に入れながら、地域の実情を踏まえた公共交通の整備を進め、市民の利便性向上に努めます。

6 消防・防災

危機管理体制の強化とともに、地域防災力の向上や消防体制の充実を図ります。



7 防犯・交通安全

地域が一体となった防犯活動を推進します。また、交通安全意識の高揚に努めるなど、安全・安心なまちづくりを推進します。

8 行財政運営

持続可能な行財政運営が進められるよう、適切な評価・検証に基づいた効率的かつ効果的な行財政運営を推進します。

計画の推進

1 計画策定の趣旨

SDGs^{※3}の取組やDX^{※4}、GX^{※5}の推進等、社会情勢は急激に変化し、行政に求められるニーズは多様化しています。こうした背景を踏まえ、10年後の瑞浪市の「目指すビジョン」を示すとともに、その実現に向けてまちづくりを進めていくための総合的な指針として、「第7次瑞浪市総合計画（以下「本計画」という。）」を策定しました。

※3：持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）の略。2015年の国連サミットで採択された2030年を期限とする先進国を含む国際社会全体の17の開発目標。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むもの。

※4：デジタルトランスフォーメーションの略。データとデジタル技術を活用して、人々の生活をより良い方向へ変革すること。

※5：グリーントランスフォーメーションの略。温室効果ガスを発生させない再生可能なクリーンエネルギーに転換し、経済社会システムや産業構造を変革させて成長につなげること。

市民の役割、行政の役割

本市におけるまちづくりは、「瑞浪市まちづくり基本条例」を基本とし、市民と行政の適切な役割分担を認識し、協働の取組を通じて地域課題を解決するとともに、「目指すビジョン」を実現すべく取り組みます。

市民の役割

まちづくりは、市民一人ひとりが主役となって取り組んでいく必要があります。また、地域団体や企業等も地域を支える担い手となるため、多様な主体が担い手意識を共有しながら互いの活動を尊重し、まちづくりに積極的に関わっていくことが重要です。また、本市の将来を担う子どもや若者の参加も得ながら、市民一人ひとりが瑞浪市民であることに誇りを持ち、まちづくりを推進していくことも重要です。



行政の役割

財政基盤の強化や健全な行財政運営はもちろん、行政の質の向上が求められます。市民の意思を的確に把握し、効率的かつ効果的に施策を展開していく中で、本市の「目指すビジョン」の実現に向け、持続した取組を進めていくことが重要です。

多様な主体の活動を促進し、協働による取組を推進するなど、地域の主体的なまちづくりを支援していくことが求められます。



2 計画の位置づけ

本計画は、将来における本市のあるべき姿と進むべき方向についての基本的な指針であり、自治体運営の最上位の計画です。すべての政策分野にまたがる基本方針となるものです。

3 計画の構成・期間

基本計画（10年間） 5年を目途に見直し

	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)
基本構想	■	■	■	基本構想（10年間）		■	■	■	■	■
基本計画	■	■	■	基本計画（10年間）		■	■	■	■	■
						5年を目途に見直し				
実施計画	実施計画（3年間）									
		実施計画（3年間）								
			実施計画（3年間）							
						※ 毎年度、ローリングによる見直し				

SDGsを踏まえた計画の推進

各施策を推進するにあたり、SDGsの理念に沿って進めることで、地域課題解決の加速化が期待できることから、SDGsを本計画に関連づけながら、推進していきます。



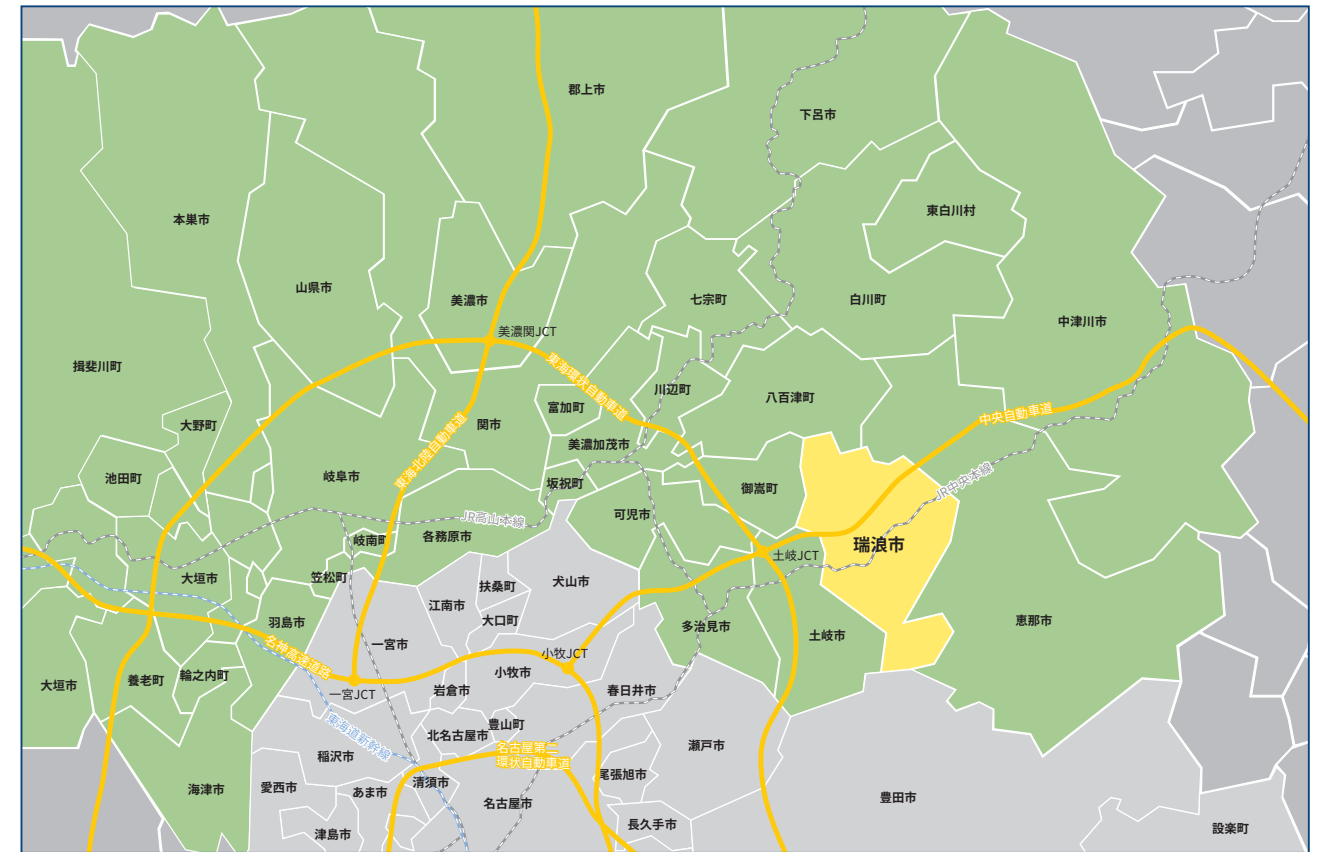
瑞浪市はこんなまち

本市は、岐阜県の南東部に位置する、面積が174.86 km²あるまちです。中心部には土岐川、北部には木曾川が流れ、市域の約7割を山林が占めるなど、緑豊かな自然環境を有しています。

古代は東山道、中世は鎌倉街道、近世は中山道の宿場町として、東西の政治・経済・文化が交流して栄えた歴史のあるまちです。また、室町時代からの伝統を誇る陶磁器のまちであり、古生物等の化石が発見される、歴史薫るまちでもあります。



交通インフラは、大変恵まれている地域です。東西に国道19号、中央自動車道、JR中央本線が走り、近隣市を南北に通る東海環状自動車道が中央自動車道に接続しています。東京・名古屋間での早期開通を目指すリニア中央新幹線岐阜県駅(仮称)のアクセス道路としての役割や、災害時の緊急輸送道路として期待される国道19号瑞浪恵那那道路の工事が進められています。



社会潮流

1. 人口減少社会と地方創生

- ・地方と東京圏の経済格差の拡大等が、若い世代の地方からの流出と東京圏への一極集中を招いています。
- ・労働力不足による地域経済の減退、社会保障における市民負担の増加等、地域づくりに大きな影響を与えることから、地方の人口減少問題の解消および活性化に向けた地方創生の動きが進んでいます。
- ・デジタル実装を通じた地方活性化の推進に向けた取組が進められています。

2. 情報通信技術 (ICT) の普及と新たな展開

- ・自動車や家電等、あらゆるモノがインターネットにつながるIoT^{※6}、AI^{※7}の活用、5Gの推進等が注目され、さまざまな分野において、さらに便利で効率的になるSociety5.0^{※8}への移行が進んでいます。
- ・AIやビッグデータを活用して、社会の課題解決や変革を進めるDXの取組が期待され、障壁のない情報活用環境づくりが求められています。

3. 地域のつながりの再認識・協働の重要性の高まり

- ・地域活動の担い手の減少、ライフスタイルの多様化等を背景に、地域のつながりが希薄化し、コミュニティ機能の低下が懸念されています。
- ・適切な役割分担と協調関係のもとで、よりよい地域づくりを進めていくことが重要です。

4. 経済情勢と働く環境の変化

- ・多くの産業において、人手不足が問題となっています。
- ・女性の社会進出やワーク・ライフ・バランスの重要性も高まり、自分らしい働き方と暮らし方が両立できるよう、環境整備が求められています。

5. 持続可能な社会の実現

- ・政府は、「SDGs実施指針」のもと、アクションプランを掲げ、様々な分野でのSDGsの達成に向けた取組を進めています。
- ・様々な分野において、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させる「カーボンニュートラル」の実現に向けた中長期的な取組が進められています。

6. 安全・安心意識の高まり

- ・全国各地で自然災害が多発し、大きな被害をもたらしています。地域の実情に即した防災・減災対策が求められています。
- ・子どもや高齢者を狙った悪質な犯罪の発生や交通事故等、市民の日常生活の安全を脅かす事案が多様化・複雑化しており、安全・安心な社会づくりが求められています。

7. 質の向上を目指した行財政運営

- ・人口減少による自治体の歳入の減少、高齢化の進展による社会保障費の増大、老朽化の進む公共施設やインフラの整備・改修等が課題となっています。
- ・効率的・効果的な行財政運営が求められ、行財政改革や自治体間連携を進めるなど、限られた資源を有効に活用する取組が重要となっています。

※6：Internet of Thingsの略。様々なモノがインターネットに接続され、情報交換できることを相互に制御する仕組み。

※7：Artificial Intelligenceの略。人工知能。コンピュータがデータを分析し、推論や判断等を行う人間の思考プロセスと同じような形で動作する技術。

※8：「狩猟社会」、「農耕社会」、「工業社会」、「情報社会」に続く、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会。

まちのこれから

1. 少子高齢化への対応・地方創生の推進

- ・若い世代が安心して働き、子育てができる環境整備を進めるとともに、地域人材を育むまちづくりを進め、市民が住み続けたいと思える魅力あるまちづくりを進める必要があります。
- ・デジタル技術を活用した社会基盤の整備により、地方創生の取組を進める必要があります。



2. 魅力創出と情報発信の取組

- ・積極的な情報発信による本市の認知度およびイメージの向上を図るとともに、本市への愛着を醸成することが求められます。また、持続可能なまちづくりを進めていくためには、すべての世代に対してわかりやすい情報発信・共有が重要です。
- ・地域の課題の解決、魅力の向上に向けた取組等、あらゆる分野にデジタルの力を活用し、発展させていく必要があります。



3. 共に支え合い、生きがいを持って暮らせる地域づくり

- ・健康づくりや介護予防、要介護状態の重度化防止とともに、意欲ある高齢者が地域で活躍できる仕組みづくりが必要です。
- ・人生100年時代に向け、自分らしく活躍できる地域コミュニティを築き、地域における各主体との協働により、助け合い暮らすことのできる「地域共生社会」の実現が求められます。



4. 産業の総合的な活性化

- ・持続可能な地場産業を振興するとともに、新規、規模拡大等の事業者の支援に取り組むことで、産業全体を活性化していくことが重要です。また、ワーク・ライフ・バランスに配慮した企業の成長が求められます。



5. SDGsの取組

- ・SDGsの理念をまちづくりに取り込むことにより、持続可能な地域の未来を実現する「地方創生SDGs」を推進します。
- ・ゼロカーボンの実現、循環型社会を目指すとともに、省エネルギー・新エネルギーの活用やその取組を推奨することで、環境に対する意識向上を図ることが必要です。



6. 安全・安心のまちづくり

- ・自助・共助・公助の考え方のもと、適切な行動を取り、人的被害が軽減できるよう、災害発生前からの積極的な情報発信を行うなどの取組が必要です。
- ・市民一人ひとりが防犯意識を持ち、また地域ぐるみで取り組むことで市民の安全・安心が確保できるよう、まちづくりを進める必要があります。

7. 時代に即した行財政運営

- ・利便性・質の高い行政サービスの展開を図ることが重要です。
- ・サービスの安定的・継続的な提供のために、公共施設等の計画的な維持管理、広域化の推進、民間活力の導入、官民連携に積極的に取り組むなど、持続可能な財政基盤を確立していくことが重要です。



瑞浪市人口ビジョンと総合戦略

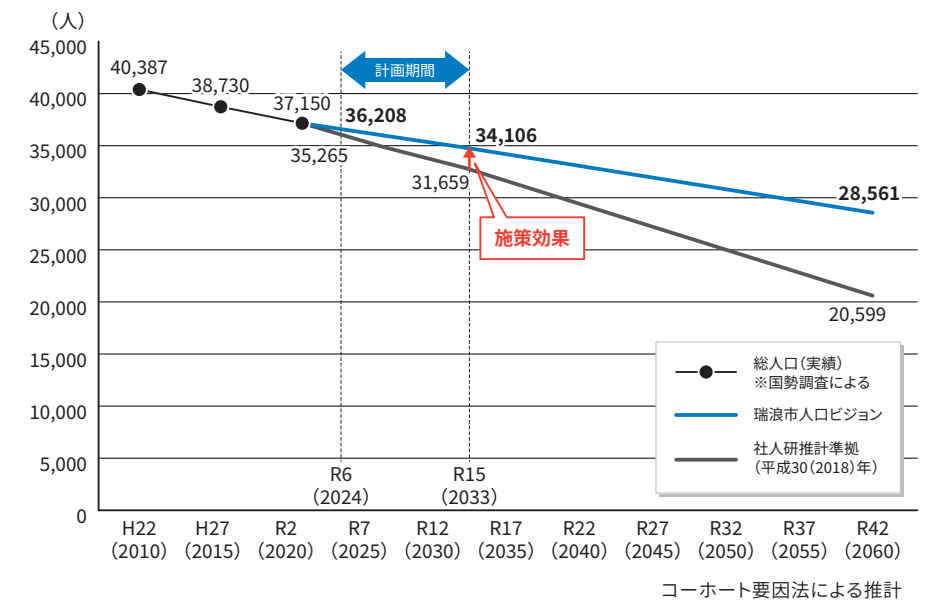
1 人口ビジョンの考え方と将来展望

長期的な目標人口
令和42(2060)年に
28,000人程度の人口規模を維持

自然増減、
社会増減に関する想定

令和2年国勢調査の実績値及び社人研による推計をベースに、国、岐阜県の示す人口ビジョンを踏まえつつ、本計画に基づく施策効果として、令和22(2040)年までに合計特殊出生率が人口置換水準(=2.07)まで段階的に回復し、以降は維持することを見込みました。

施策効果としては、各種子育て支援施策、移住定住施策、瑞浪駅周辺再開発事業やリニアの開通を見据えた岐阜県リニア中央新幹線活用戦略等を想定します。



2 瑞浪市版総合戦略

前述の人口ビジョンを達成し、本市における地方創生を実現するため、人口減少対策、地域活性化施策については、「瑞浪市版総合戦略」としてまとめ、重要施策として取り扱うこととします。